

2026年6月28日（日）主日朝礼拝説教

『すべてを善とする方』 井上隆晶牧師

創世記 45 章 4～8 節、ローマの信徒への手紙 8 章 26～28 節

①【旧約聖書のヨセフ物語】

ローマの信徒への手紙の 8 章 28 節に有名な言葉が出て来ます。それは「**神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ**を、わたしたちは知っています。」というものです。私の母教会の中島恵美子牧師もよくこの言葉を引用されました。神様の計画に従って召命を受けたキリスト教徒たちには、どんなに試練や苦難があっても、それらすべてが意味あるものとなるのだということです。そのことを教えてくれる物語があります。それは旧約聖書のヨセフ物語です。

族長ヤコブにはレアとラケルという二人の妻、ビルハとジルパという二人の側女がいました。この四人から 12 人の子供が生まれるのですが、ヨセフはラケルから生まれ、ベニヤミンという弟がいました。父親はどの兄弟よりもヨセフをかわいがったので、他の兄弟からヨセフは憎まれ、ある日、兄弟たちによって銀貨 20 枚で商人に売られてしまいます。彼はエジプトに連れて行かれ、宮廷の役人の奴隷となります。その役人の妻がヨセフに言い寄り、それを断ったために罪もないのに牢屋に入れられてしまいます。しかし彼は**その牢屋の中で夢を解く力を神様からいただきます**。7 年間の豊作の後に、7 年間の飢饉が来るという「王様の夢」を解いたことから、2 年の後に牢屋から出され、エジプトの宰相になり、エジプトと全世界を飢饉（死）から救う者になるのです。ヨセフはキリストの雛型と言われています。キリストが銀貨 30 枚で売られ、罪もないのに死の牢獄の中に入れられても、三日目に復活し、世界を滅びから救う者になったからです。

②【主が共におられるなら万事は益となる】

ヨセフは兄弟たちにエジプトに奴隷として売り飛ばされ、罪もないのに牢獄に入れられるという不幸が重なりましたが、彼が絶望せずにいられたのには秘訣があるのです。聖書を読むと「**主がヨセフと共におられたので、彼はうまく事を運んだ**。」（創世記 39：2）「**主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計らわれた**」（同 39：3）「**主がヨセフと共におられ、恵みを施し、監守長の目にかなうように導かれた**」（同 39：21）「**主がヨセフと共におられ、ヨセフがすることを主がうまく計らわれたからである**。」（同 39：23）と繰り返し、「主がヨセフと共におられた」と書かれています。神が共におられたからこそ、どんなひどい境遇でも、どんな悪がやってきても負けることがなかったのです。これが悪に勝つ秘訣です。

詩篇 119 篇 68 節に「**あなたは善なる方、すべてを善とする方**。」という言葉が出

てきます。神は考えうる限りの善なる方です。神が天地を創造された時、この世は善しかありませんでした。「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記 1 : 31) と言われています。神は悪をお造りにはなりません。ですから悪はどんなに大きく見えても存在ではなく、善の欠如した状態に過ぎません。悪は人間の不従順を通して、この世に入ってきました。悪は人間を悪い状態に変え、万物を破壊したのです。そこで神はこの世を再び善いものにするために来られたのです。キリストが万物を癒す方法は、病んでしまった人間性とこの世をご自分と一体になさるという方法でした。

●14 世紀のニコラス・カバシラスは「人間は神から本性、罪、死という三重の障害によって離れさったのです。しかし主キリストによってこれらの障害は次々と除去されました。…主は受肉によって人間性の障害を、その死によって罪の障害を、復活によって死の障害をそれぞれ除去したからです。」と言いました。また 4 世紀のナジアンゾスのグレゴリオスは「実に、キリストに受け取られなかったものは癒されない。しかし、神キリストと一つに結ばれたものは救われる。」と言っています。

実際、キリストが病人に手を置けば病は癒され、生まれながら目の見えない障がい者に触れると、障害は神の業が現れるためのものに変えられました。キリストがパンを手にとって祝福すれば、それは彼の聖なる体となり、どんなに屑であっても人を満たすパンになるのです。彼が人の罪を受け取られれば、それは赦しに変えられ、彼が死を受け取られたのなら、その死の性質は変えられ、それはもはや崩壊でも呪いでもなく、復活の前門に変えられたのです。

③【すべての出来事の中に神を入れよう】

ヨセフは兄たちに再開した時、こう言いました。「今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。」(創世記 45 : 5)、「わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。」(創世記 45 : 8)「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。」(創世記 50 : 20)

この世の人は自分がひどい目に逢うと、「あの人のせいで私は苦しんだ」と人のせいにし、人を恨みます。しかしヨセフはそうではありません。確かにヨセフをエジプトに売ったのは兄たちであり、彼らはヨセフに悪をたくらんだのです。でも神はその兄たちの悪(サタン)でさえも用いて、そこから善を生み出されたのです。ヨセフはすべての出来事の中に神が働いておられることを知りました。そして人がどんなに悪をたくらんだとしても、神の救いの計画を誰も邪魔することができないことを知ったのです。

●静岡県磐田市の齋藤諒くんは高校二年生の時に、交通事故に遭い頸椎を損傷し、手足が完全に麻痺して動かず、人工呼吸器をつけなくては自分で息もできない体

になってしまいました。「口から食べることができず、鼻から管を入れて胃に流動食を流しこむだけだ。尿も便も自分の意志とは関係なく出てしまい、おむつ無しでは生活できない。ただ上を向いて寝ているだけだ。どれほど屈辱的だったか。こんな生活が一生続くのか、死んだほうがまし！だけど、自分で死ぬこともできない。」野球が全てだった彼は、浜松商業野球部の捕手をしていました。加害者は27歳の男性でした。「僕をこんな目に遭わせて、どうしてくれるのか！」ただ怒りしかなかった。しかも、自動車保険の期限切れで、賠償金が一銭も出ませんでした。加害者と父親が見舞いに来た時、姉は「諒の人生を返せ！元通りにしろ、一生同じ苦しみを負わせてやる！」といい、父は「見舞いに来る暇があるなら、働いて金を持ってこい！」と追い返し、母は、加害者の祖父が来た時も「顔も見たくない！」と追い返しました。そんな彼の所へ野球部の先輩が牧師を連れて見舞いに来てくれ、牧師からイエス様の話を聞いたのです。彼は話を聞いている内に自然と涙が溢れ、イエス・キリストを信じるようになりました。その時からいくつもの奇跡が起こり、リハビリをして家に帰れるようになり、教会に家族そろって行くようになりました。更に高校認定試験を受けて合格し、サイバー大学に入学し五年で卒業します。憎しみと恨みしかなかった家族は、加害者を赦すことを考えるようになります。そして加害者とその家族に教会に来るように誘います。加害者は心労の為、若いのに髪の毛を失っていました。父親も自分が死んで保険金を賠償金にしようと考えていたと話してくれました。彼らも教会に来るようになり、諒君の父親の紹介で、加害者の父親が同じ職場で働くようになりました。加害者と被害者の父親が、事故をきっかけに一緒に働くようになったのです。母は「人を罪に定め、訴え続けるのは違う。裁判を一刻も早く終わらせたい」といって、弁護士に裁判の取りやめをお願いしました。弁護士は「頭がおかしいのではないか！」と怒ったといいます。しかし家族は聖書の教えに従いました。「互いに責むべきことがあれば、赦し合いなさい。主もあなたがたを赦して下さったのだから、そのようにあなたがたも赦し合いなさい。」(コロサイ 3:13) 母は、加害者の祖父を追い返したことに罪責感を持ち、謝罪すると祖父は「もったいない！」と涙を流し、背負っていた重荷から解放されて、キリスト教徒になりました。「家族がキリストを信じなかったら、これらの奇跡は起こらなかったに違いがない。赦すことに働く大きな神の愛と力を実感した。」といっています。

私たちも、目の前に展開される状況はあまり嬉しくない出来事かもしれません。しかし、その中でも神は働いておられるということを信じましょう。ですからすべての出来事にキリストを入れましょう。修道院ではすべてに十字を描きます。自分にも相手にも、食べ物にも、仕事にもです。すべて起こってくることは神の中にあり、キリストがそこに居られれば、必ずすべてを善に変えて下さると信じましょう。